

埋文ふじのみや

MAIBUN

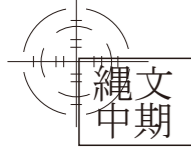
Vol.7



曾利式土器（南原遺跡）

いよいよ今号で縄文遺跡特集は締めくくり！これで市内の旧石器～縄文時代、計19の遺跡をみなさまにお届けしたことになります。色んな特徴を持つ各遺跡、お気に入りの遺跡は見つかったでしょうか？

写真だけではわからない土器の魅力に触れたい方は、今すぐ埋蔵文化財センターへカモ～ン！



Sengo 千居遺跡

国指定史跡

せんごいせき

富士宮市上条

調査年 /
1970年・1971年
2008年

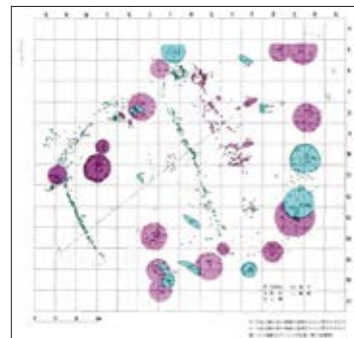


集落の廃絶と配石遺構

千居遺跡は、縄文中期後半に営まれた遺跡です。大石寺の北側の緩やかな丘陵の上に20数棟の竪穴住居跡が重なって発見されました。竪穴住居跡は径5～6mの円形で40m程の広場を中心に馬蹄形（馬のひずめの形）に並んで築かれていました。住居の重なりからごく短い間に2度の建て替えがあり、広場を中心に10棟前後の竪穴住居が建てられていた縄文集落のひとつの

形を知ることができました。これらの竪穴住居跡は富士山の火山灰に埋もれており、富士山の噴火で「ムラ」が存続できなくなったものと考えられています。その後「ムラ」の跡には長さ40m以上の2基の列石や、径3～5mの円形配石6基、立体配石などが築かれました。千居のムラから去らなければならなかった人たちが、生活の安泰を願って「マツリ」の場を作ったとされ、2基の列石跡は富士山に対して防波堤のように並んでいることから、初期の富士山信仰も想像されています。

報告書 / 『千居』1975年
『千居遺跡範囲確認調査報告書』2010年

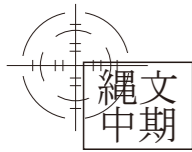


調査全体図

遺跡全景（航空写真）



曾利式土器（1～7: 深鉢 8: 浅鉢）



Nambara 南原遺跡

なんばらいせき

富士宮市長貫

調査年 / 1984 年

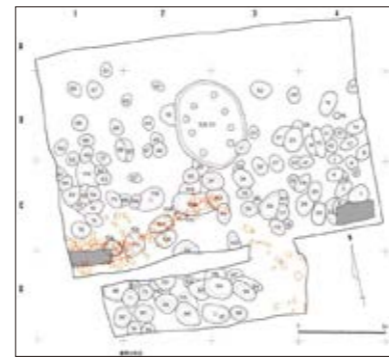


竪穴住居と配石

南原遺跡は、富士川と芝川の合流地点を望む丘陵の上に竪穴住居と配石や土壇が築かれた遺跡です。縄文中期後半のごく短い間に住居の構築と廃絶、その後に配石が築かれており、上条の千居遺跡と同様のあり方をしています。竪穴住居跡は5m×4mほどの長円形で八本の柱穴が深く掘られ、壁ぎわには住居廃絶後に掘られた径1mほどの土壇跡が2基重なっていました。河原石を弧状に並べている15mほどの配石跡が確認され、配石の下には数10基の埋甕や土壇が重なって掘られていました。埋

甕には底を割ったり、穴を開けたりする土器が多く、霊などの存在を意識したものと考えられたり、甕の一部に骨片が検出された例があることから集団墓地的な性格が考えられます。

報告書『南原遺跡』1985年

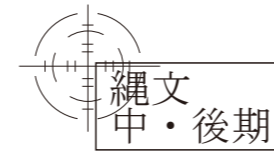


発掘調査全体図(赤:配石遺構)



Nambara

曾利式土器



Yunotsuji 柚野辻遺跡

ゆのつじいせき

富士宮市下柚野

調査年 / 2004年・2010年



芝川地区の代表遺跡

柚野辻遺跡は、柚野小学校の校庭を中心に東の芝川沿いまで広がる大きな遺跡です。昭和の初めまでに多くの土器片や石器が採集され、昭和3年発行の『静岡縣史』にも紹介されています。本格的な発掘調査は消防団詰所の建設によるもので、竪穴住居跡や土坑跡、集・配石跡などが発見されました。出土した土器片の多くは縄文中期(4,500年前頃)の井戸尻式・曾利式土器など中部高地の土器で、そのなかに関東系の加曾利E式土器も混じっています。他に弥生土器片、土師器片や須恵器片もみられ、管状の土錘

(素焼きのおもり)があり、芝川での漁撈活動が想像されます。

報告書『辻遺跡』2004年
『富士宮市内遺跡分布調査報告書』2013年
『富士宮市の遺跡VI』2017年



調査区全体図

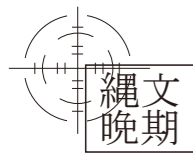


管状土錘
(弥生・古墳時代)



曾利式土器

Yunotsuji



Tatsuno 辰野遺跡

たつのいせき

富士宮市大岩
 調査年 / 1991 年



晩期の希少な遺跡

辰野遺跡は、重林寺東側の丘陵の山間を流れ出る滝沢川東岸の緩やかな斜面に広がる縄文晩期の遺跡です。本地域の晩期の遺跡は2,700～3,000年前頃の富士山の噴火や気候の変化もあり、営まれた遺跡はごく僅かとなります。調査は滝沢川の出口の100㎡ほどの小範囲で実施され、安行式・大洞式・天王山式土器や石器がコンテナ3箱分出土しました。出土土器の大半は静岡市で出土する清水天王山式土器で、徐々に西日本の文化が浸透してくる様子が伺えます。また、耳栓と呼ばれる小さな

な滑車のような土製の耳飾りが出土しました。これは、耳たぶに穴を開けてはめ込むもので、年齢とともに大きなものをはめていくと言われていています。

報告書『富士宮市の遺跡』1993年

発掘調査
全体図



耳栓



晩期土器群（清水天王山式土器等）

遺跡から富士宮の原始・古代を考える 邪馬台国時代の富士宮

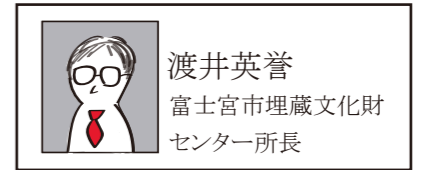
V. 邪馬台国前夜⑤ 一環濠集落一

富士地域で、現在3か所の環濠集落が遺跡で見つかっています。富士宮市にある泉遺跡、月の輪上遺跡と富士市の宮添遺跡です。いずれも弥生時代後期の中頃に登場する点で共通しています。富士宮市の遺跡は既に紹介しました。富士市の宮添遺跡は、かつて広大な湖であった浮島ヶ原を見下ろす丘陵上に築かれた遺跡で、丘陵を東西に区画している2条の溝が見つかっています。溝からの出土遺物は、雌鹿塚Ⅱ式期のものに限定されます。この点は、泉遺跡とよく似ています。2世紀前半のことではないかと想像されます。

月の輪上遺跡の環濠の遺物は、雌鹿塚Ⅱ式期と雌鹿塚Ⅳ式期に分けて捉えられます。つまり、環濠集落の中でも雌鹿塚Ⅳ式期である2世紀後半まで続く遺跡と雌鹿塚Ⅱ式期で終わる遺跡のあることが指摘されるのです。そして、雌鹿塚Ⅲ式期～雌鹿塚Ⅳ式期には、環濠本来の機能は失われていたことになるのです。月の輪上遺跡では、溝状の窪地が残され、そこへ遺物が遺棄されていたのです。2世紀後半まで

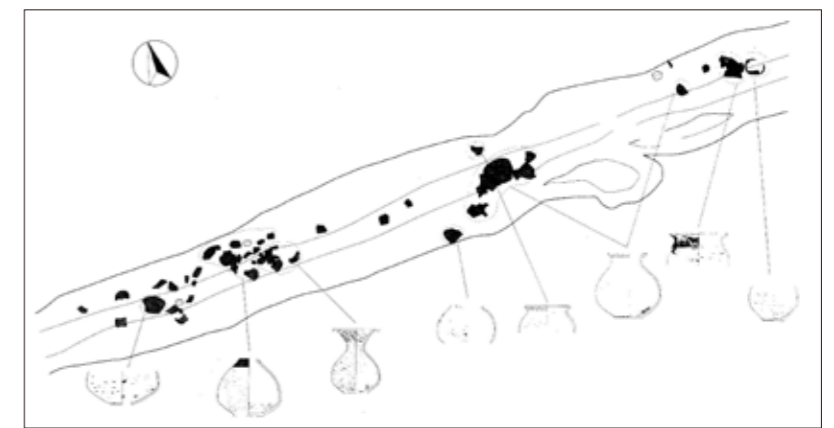
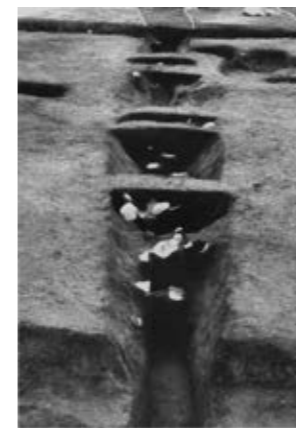
環濠集落は継続的に経営されていなかったのでしょうか。この時期もうひとつの拠点となった滝戸遺跡で環濠のある溝が発見されない理由は、ここにあるのではないかと考えます。

集落間の格差を前提として、集落を囲み、その中に集落を支配する人がいる弥生時代中期以降の社会は、この段階において、ほぼ終焉を迎え、雌鹿塚Ⅲ式期以降新たな時代となるのではないかと考えます。支配する人が、環濠から飛び出し、広域的な地域支配が推し進められたのです。それが、丁度、「桓霊の間」に当たり、倭国が大いに乱れる時代に合致するのです。但し、日常的に使われた土器の形や組み合わせ、あるいはお墓の形など前段階と大きく変わるものではありません。生活の様式が変わるのは、次の邪馬台国の時代を待たなければならないのです。まさしく、雌鹿塚Ⅲ式期～雌鹿塚Ⅳ式期が、邪馬台国時代の前夜と言えるのです。その時代は2世紀後半のこととなります。



渡井英誉
 富士宮市埋蔵文化財
 センター所長

宮添遺跡（左 / 環濠 右 / 環濠と出土遺物）



（発掘調査報告書より）

次号の案内

富士宮市内で見つかった

弥生時代の遺跡特集 1

富士宮市の見どころ案内 12月～'20年1月の予定

「狩宿の下馬ザクラと井出家」展 12月10日（火）～3月29日（日）

「富士の巻狩」の舞台となったされる狩宿の井出家の歴史と、ゆかりの「狩宿の下馬ザクラ」について紹介します。

場所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市民文化会館内）

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：毎週月曜日（第3月曜は除く）、年末年始

問い合わせ先：富士宮市教育部文化課 埋蔵文化財センター 0544-65-5151

田貫湖まつり 12月14日（土）

田貫湖畔で行われる、太鼓、音楽、花火のイベント。北部地域活性化を目的に実施される、12月のイベントです。市内の飲食店ブースも多数出店し、お楽しみいただけます。

場所：田貫湖 問い合わせ先：富士宮市観光協会 0544-27-5240

たこたこあがれ in 富士山 1月12日（日）

朝霧高原で凧揚げをみんなで楽しめる参加型のイベントです。スポーツカイトや和凧、立体凧、3Dビックカイトなど様々な凧が大集合し、大空を鮮やかに彩ります。

問い合わせ先：スカイ朝霧 0544-52-0304

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地 〒419-0315

静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日

* 祝日及び年末年始（12月28日～1月3日）は休館

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

* 埋蔵文化財センターの業務時間は

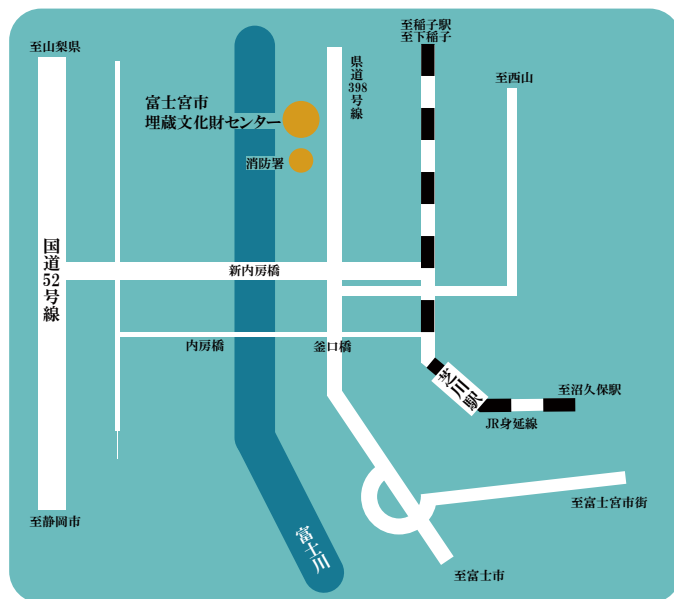
8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり（無料）



交通案内



富士宮市埋蔵文化財センターだより

埋文ふじのみや Vol.7

令和元年 12月

編集／発行 富士宮市埋蔵文化財センター

※『埋文ふじのみや』はバックナンバーを含め、富士宮市のホームページでご覧になれます